

会話の格率の認識的側面

阿部 裕彦 (Hirohiko Abe)

無所属

証言の認識論は、伝聞による知識獲得を取り上げる。情報伝達のコミュニケーション（証言）を支配する規範には、知識獲得に繋がるという点で認識的なものだけでなく、話し手と聞き手の間に成立する対人関係に関わるものも含まれる。すなわち、互いの尊重に関わる点で倫理的な規範があり、情報伝達に固有の言語行為が行われると捉えられる点で語用論的な規範も関わっている (cf. Goldberg, 2020)。本発表では、これらの諸規範のうち、とりわけ話し手における認識的な規範と語用論的な規範の関係を検討することで、証言を支配する規範の本性の明確化を試みる。

語用論的な規範として、本発表では、ポール・グライスの会話の格率を取り上げる。会話の格率は、証言の場面で話し手に課される語用論的な規範として解釈することが可能である。すなわち、話し手は、（１）必要なだけの情報を持つ発言を行わなければならない、かつ必要以上に情報の多い発言をしてはいけない（量の格率）、（２）偽だと信じていることや十分な根拠に欠けると信じていることを発言してはならない（質の格率）、（３）関係のあることを発言しなければならない（関係の格率）、（４）わかりやすい言い方で発言しなければならない（様態の格率）(Grice, 1989)。

本発表では、これらの格率が、知識の獲得、特に認識的正当化にいかにして寄与するかを論じる。エドワード・ヒンチマンは、証言による知識獲得を「保証 (assurance)」という言語行為の成立から説明する。保証は単なる主張 (assertion) と異なり、「聞き手の信頼を招く (inviting trust)」ものとして特徴づけられる。ヒンチマンによれば、話し手が聞き手に保証を与えることが、証言による知識獲得における認識的正当化で本質的な役割を果たす。ここで重要なことは、保証という言語行為において話し手に次の二つの能力が求められる点である。第一は、真実を述べる能力である。これは、聞き手が持つ真の内容の情報を得たいという認識的ニーズを満たす。第二は、自らの熟慮や探究を認識的に責任ある仕方で行いたいという聞き手の文脈依存的なニーズを満たすものである。話し手は、自らが聞き手の置かれた文脈に照らして信頼に足ることを示す必要がある (Hinchman, 2014)。

例えば、ピーナッツの味が嫌いな話し手が、ピーナッツアレルギーの聞き手に、「このクッキーにピーナッツは含まれていない」と伝える場合を考えよう。このとき、聞き手が話し手を信頼することで「このクッキーにピーナッツが含まれていない」という知識を獲得するには、まず、この命題が真でなければならない。これが話し手に求められる第一の能力に対応する。さらに、聞き手が認識的に責任ある仕方で行いたいという聞き手の文脈依存的なニーズを満たすには、話し手は、聞き手の文脈で要求される基準に照らして当該証言を行っていることを示す必要がある。この場合は、アレルギーの聞き手に課される基準に合わせて、パッケージの画像だけでなく、成分表やアレルギー表示を確認し、その確認を行ったうえで

当該証言を行っていることを示す必要があるだろう。これが聞き手に求められる第二の能力に対応する。

ヒンチマンが話し手に要求する二つの能力を証言における話し手の認識的規範と見なすとする、グライスの会話の格率のうち、質の格率は第一の能力、量の格率、関係の格率、様態の格率は第二の能力に含まれると考えられる。本発表では、特に、話し手が聞き手に対して、聞き手の文脈に照らして自らが信頼できる情報提供者であると示すうえで要求される規範の中に、必要十分な量の情報を提供すること（量の格率）、聞き手にとって関係性の高いことのみを発言すること（関係の格率）、わかりやすく述べること（様態の格率）が含まれていると論じる。これにより、証言の場面における一見語用論的な規範に見える会話の格率が、同時に認識的正当化に貢献することを示す。

以上の議論を通して、本発表では、証言が知識獲得に関わると同時にコミュニケーションであるということに由来する規範の本性を明確化する。

参考文献

Goldberg, Sanford C. (2020). *Conversational Pressure: Normativity in Speech Exchanges*. Oxford University Press.

Grice, Paul (1989). *Studies in the Way of Words*. Harvard University Press. [清塚邦彦訳 (1998). 『論理と会話』. 勁草書房.]

Hinchman, Edward (2014). Assurance and warrant. *Philosophers' Imprint* 14:1-58.